

広島大院と連携

訪問看護師育成

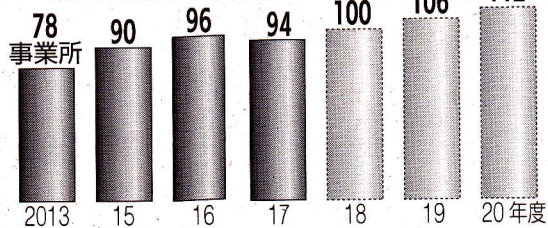
広島市は10月、高齢化に伴ってニーズが高まる在宅医療を担う人材を増やそうと、広島大大学院医歯薬保健学研究科(南区)と連携し、訪問看護師を育てる研修会を始める。市や安芸郡内の看護師を対象に、短期集中型で技量を身に付けてもらう。人材不足を背景に在宅でのみとりに対応できる事業所数は伸び悩んでおり、やりがいも伝えられるプログラムを組む。

市によると、大学と市が連携して訪問看護師を育成する例は全国でも少ないという。無料で、訪問看護を経験したことのない人や経

験1年未満の人が対象。開始日は、10月13日か11月10日のいずれかを選び、計5日間、南区の広島大霞キャンパスなどに通う。講義では呼吸器疾患や認知症、心不全などの実践的なケアの知識を得るほか、経験豊かな訪問看護師から仕事の魅力や心構えを聞く。実習は3日間で事業所の訪問看護に同行し、患者や家族との接し方を学ぶ。

市や厚生労働省の調査によると、自宅での人生の最期を希望する市民は58・8%。一方、実際に自宅で亡くなるのは14・8%にとどまっている。市は団塊の世

広島市内の在宅みとりに対応できる訪問看護事業所数



※18年度以降は、市の数値目標。14年度は調査データなし

代が75歳以上となる2025年に向け、在宅でのみとりができる訪問看護事業所数を20年度に112事業所とする目標を掲げる。しかし、16年度の96事業所に比べ17年度は2減となった。訪問看護事業所で働く広島市内の看護師と准看護師は16年12月末現在、計15

人材不足背景 実践的ケアや接し方

38人で全体の3・7%にとどまる。訪問看護師は家庭に出向き、患者の症状を判断してケアをするほか、日ごろから看護の方針を家族と調整する必要がある。患者の容体急変で夜間の呼び出しもあるため、責任の重さや負担感から、なり手不足が続いている。

研修プログラムを考案した広島大大学院医歯薬保健学研究科の森山美知子教授(成人看護開発学)は「訪問看護師は医師に頼ることなく現場で1人で判断を迫られる場面が多い。その分患者や家族から信頼され、やりがいも感じられる。魅力を伝えたい」と話している。経験者向けのスキルアップ研修も12月15日からある。同研究科付属先駆的看護実践支援センター ☎082(257)5369。(永山啓一)